

令和5年度 外部評価シート

施設名	県立海洋体育館	現指定管理期間	令和2年～6年(5年間)
指定管理者	(公財)兵庫県スポーツ協会	選定方法	公募

1 評価項目ごとの評価 (対象期間：令和2年～5年)

評価項目	評価
維持管理業務	古い施設ではあるが、日常的な維持管理は適切に行われており、安全かつ清潔に保たれている。 艇庫については、効率的に使いやすくなる整理が必要。保存期間はあると思うが、利用されていない物品が置かれたままになっており、スペースコストを考慮すると処分を検討することも有効だと思われる。
運営業務	自主事業により、レベルにあった様々な講座を開催することで、多様なニーズの開拓を行っている。一方で、受講者が1人や3人といった少人数の講座があり、再検討の余地がある。 また、アンケートの館に対する意見に「もっと広報してほしい」とあるように、広報方法を考える必要がある。 SNSも10月のインスタグラム開設により活用されているようだが、ホームページが古く、分かりづらくあまり更新されていないようにみえるため努力が必要。
利用状況	コロナ禍で講座等の参加者は減っているが、置艇で固定的な収入を得ることが出来ている。また、平日利用者(学校利用)があり、収入増に繋がっている。 一方、利用者や利用団体が固定化しており、新たな学校・団体や家族への情報発信が必要である。自然学校は県内類似施設の閉鎖などに伴い需要があるため、山から海へ目を向けて貰う機会を逃さない工夫が必要。 県民、まずは周辺地域の利用者増加をねらい、他団体とタイアップするなど、知られていない層へ海洋レジャー施設としてどのように働きかけを行うか検討の余地あり。
収支状況	自主財源投入への回収努力が必要。 ポストコロナにおける集客による改善は期待できるが、待っているだけでは集客が困難だと思われる。利用単価が低いため、利用者増加を図るだけでは収入アップに繋がらない場合は、阪神間だけではなく、但馬や丹波の方へのアプローチを行えるイベントの開催にも積極的に取り組んで欲しい。
運営体制	危機管理など安全体制については、おおむね整っている。 各所に SNS(Instagram・Facebook)の QR コードが掲示されているが、館で運用するだけでなく、一部委託することで、インサイト等の解析による投稿内容の検討や有料広告の活用ができ、個人やグループの利用率向上に効果的ではないか。
その他	現在のアンケート実施方法・回収方法について、受講者と回答者の差が多く、アンケート結果の有効性が低い点、評価項目が3段階であり普通を選びやすいアンケートである点について見直しが必要。 県立海洋体育館という名称が堅く、実態となじまないため、ネーミングライツなどを活用するなど、海洋施設のイメージ向上に工夫の余地有り。

2 残りの指定期間における改善点

利用者獲得にむけた戦略として、ホームページのリニューアル、SNS の効果的な使用(団体または個人等のターゲットに合わせた情報発信)や団体への WEB サイトによるリアルタイムな営業活動など、情報発信改善に向けた取り組みが求められる。
また、上記事業にはコストがかかるため、予算の組み方を再考する必要がある。

3 次期公募に向けた検討課題等

利用者獲得のため県民や周辺施設へ向けて、瀬戸内に面する県立海洋施設という特性を最大限に活かした、自主事業のPR やスクール開催情報の発信が求められる。

なお、情報発信方法に課題があるため、SNS を活用した効果的かつ効率的な広報の促進が必要である。

また、船の老朽化、施設保全や広告費の捻出のため予算編成における比重の見直しに検討の余地がある。

老朽化が進むなか、施設のスペースを有効活用するため、利用されていない物・場所の整理を行うと共に、多くの利用者が立ち寄れるよう施設の雰囲気明るくなるよう努めてもらいたい。

(参考) 県立健康増進施設外部評価及び指定管理者候補者選定委員会委員

氏名	主な役職	備考
山口 泰雄	神戸大学名誉教授	委員長
宇田 名保美	中小企業診断士	
太田 はるよ	兵庫県子ども会連合会副理事長	
高見 彰	関西国際大学経営学部経営学科教授	
長谷川 つち代	兵庫県スポーツ推進委員会代表理事	